

# AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 () 平成18年度:62-79.

持込手術器械の現状

阿部, 幸子

# 持込手術器械の現状

旭川医大病院材料部

阿部幸子

## 昔の状況①

- 手術器械は所有していた。未滅菌の特定保険医療材料を持込み、包装・滅菌した。
- 所有している特定保険医療材料では不足なときに持込んだ。
- 医師が新しい手術器械を試用するために持込んだ。
- 医師が自ら持込んだ。

手術器具等の持ち込み申込書				
		平成	年	月 日
		申込者氏名		
診療科				
使用責任者名				
持ち込み者名				
使用日				
施用患者名				
品名				
数量				
滅菌方法	オートクレーブ ・ EOG滅菌 ・ 低温プラズマ滅菌			
回収予定日		回収日		
回収予定者名		回収者		
材料部				
	持込時受領者		( 月/日)	
	返却者			
	メ	モ		滅菌開始時刻
	滅菌日			包装数
	滅菌法			作成者

## 昔の状況②

- 医師の使用する手術器械が増えた。
- 診療科所有の手術器械を持ち込んだ。
- 医師がメーカー・業者に持込ませるようになってきた。
- 所有している特定保険医療材料以外のものを持ち込むようになった。
- 特定保険医療材料が滅菌済みになった。

## 現在の状況

- ・手術器械を所有せず借用するようになった。  
(モデルチェンジが早まった。多種類になったためとても購入できない。医師が替わる。)
- ・特定保険医療材料を所有する経費の削減を図った。
- ・診療科・医師個人の所有する手術器械を業者に持込ませる。
- ・医師は持込まれる手術器械の量を把握していない。
- ・使用の可能性の低い手術器械(スタンバイ)が多い。

### 持込手術器械の流れ①

持込申込書を添付して手術器械を持ち込む。

(医師または医師に依頼された業者・メーカー)



材料部洗浄室で持込者と一緒に員数確認をして受け取る。



清拭・洗浄・消毒をして組立室に送る。持込申込書も一緒に。



組立室で包装・表示をして夫々の滅菌に入れる。

(特定保険医療材料の員数を2人で確認する)



滅菌保管室で滅菌効果判定後、カートごと手術部に供給する。

## 持込手術器械の流れ②

手術終了後、使用器械は洗浄用バスケットに入れ、さらに回収用  
コンテナに入れて回収用カートに乗せる。

未使用器械は持込んだケースに入れたまま、未開封器械は  
そのまま回収用カートに乗せる。

材料部で回収し洗浄室に運び込む。



特定保険医療材料を添付伝票と照合する。

使用した器械・開封した未使用器械は洗浄工程に入れる。

未開封器械・持込申込書はオゾン薫蒸装置で表面を消毒する。



組立室で使用器械を点検し器械盤に入れる。

持込手術器械・持込申込書を一緒にして返却コーナーに置く。



持込者が使用器械をケースに収納、未使用器械の包装を除去して  
回収する。持込申込書を所定の場所に置いて行く。



特定保険医療材料の添付伝票をもとに(支払いの為の)物品請求をする。

## 旭川医大病院の手術件数

	全手術件数	整形外科 手術件数
平成15年度	4,173	425
平成16年度	4,957	452
平成17年度	5,184	488

手術器械持込件数		平成17年度
整形外科		806
	脊椎班	114
	上肢班	109
	股関節班	221
	下肢班	362
第一外科		17
泌尿器科		32
耳鼻咽喉科		3
産科婦人科		3
麻酔科蘇生科		6
脳神経外科		60+ $\alpha$
歯科口腔外科		3
合 計		930+ $\alpha$

術 式	申込書 枚数	手術器械包装数				2005.04.01~2006.08.31	
		全包装数	スチール数	開封数	非開封数	使用器械数 (%)	開封セット 未使用数
全人工股関節再置換術	7	28	16	4	24	23/163 (14.1)	0
人工股関節抜去+セメントピース挿入術	8	27	21	7	20	?	?
全人工股関節再置換術	2	26	9	20	6	77/498 (15.5)	2
人工膝関節置換術(両側)	1	25	22	9	16	114/375 (30.4)	0
人工膝関節再置換術	2	25	16				
人工膝関節置換術(両側)	2	24	3	21	3	70/593 (11.8)	6
人工股関節抜去+セメントピース挿入術	5	24	0				
人工膝関節置換術(両側)	1	23	18	14	9	38+ $\alpha$ /424+ $\beta$	2
人工股関節抜去+セメントピース挿入術	4	22	19	手術中止			
人工股関節抜去+再置換術	1	22	0	8	14	?	?
人工股関節抜去+セメントピース挿入術	7	22	19	2	20	?	?
全人工股関節再置換術	17	22	13	11	11	46/258 (17.8)	3
人工膝関節再置換術	2	22	9				
全人工股関節再置換術+右腓骨移植	7	22	2				
人工股関節抜去+再置換術	4	22	5				
人工膝関節置換術(両側)	1	21	16	6	15	13+ $\delta$ /175+ $\gamma$	0
人工膝関節置換術(両側)	1	21	6	15	6	33+ $\epsilon$ /392	1
全人工股関節再置換術	2	21	0	4	17	29/195 (14.9)	0
人工膝関節置換術(両側)	2	21	4	11	10	63/369 (17.1)	0
人工膝関節置換術(両側)		20	7	13	7	72/344 (20.9)	0
人工膝関節置換術(両側)	1	20	17	9	11	156/231 (67.5)	1
全人工股関節再置換術+観血の骨接合術	5	20	10	12	8		
人工膝関節置換術(両側)	1	20	14	11	9	29+ $\zeta$ /247+ $\theta$	5
人工膝関節置換術(両側)		20	5	17	3	55/369 (14.9)	3
人工膝関節置換術(両側)	1	20	0	20	0	89/576 (15.5)	6



持込手術器械を洗浄した場合の想定

(人工膝関節置換術(両側) 手術器械セット18個)

	セットの形態等	ウォッシャーデスインフェクター の洗浄ラックの形式		その他
		3段式	4段式	
手術器械セット 1	厚手 内容2段 下段はケースに固定	1	1	蓋
" 2	" 内容2段	2		蓋・本体
" 3	" 内容1段 ケースに固定	1		蓋
" 4	" 内容2段 飛び跳ね防止必要	2		蓋・本体
" 5	" 内容2段	1	1	蓋・本体
" 6	" 内容2段 リーマ分解要	1	1	蓋
" 7	中厚 内容2段		2	蓋・本体
" 8	" 内容1段	1		蓋・本体
" 9	" 内容1段 ケースに固定	1		蓋
" 10	薄手 中ケースなし		1	蓋
" 11	" 内容1段		1	蓋・本体
" 12	" 内容2段 下段はケースに固定	1	1	蓋
" 13	" 中ケースなし		1	蓋
" 14	" 中ケースなし 飛び跳ね防止要	1		蓋
" 15	" 中ケースなし		1	蓋
" 16	器械盤	1		
" 17	"		1	
" 18	" 気動式モーター 清拭・短時間滅菌			
合計		13	11	蓋 15 本体 6
洗浄ラック台数	3段(6バスケット/台) 4段(8バスケット/台) コンテナ用	2台+1個 1台+3個 約2台	合計6台	
洗浄時間	1台目 洗浄開始から終了まで	1時間20分 後25分/台×5	約3時間25分	

\*他に積み込み等の作業時間がかかる。

持込手術器械の包装・滅菌等にかかるもの

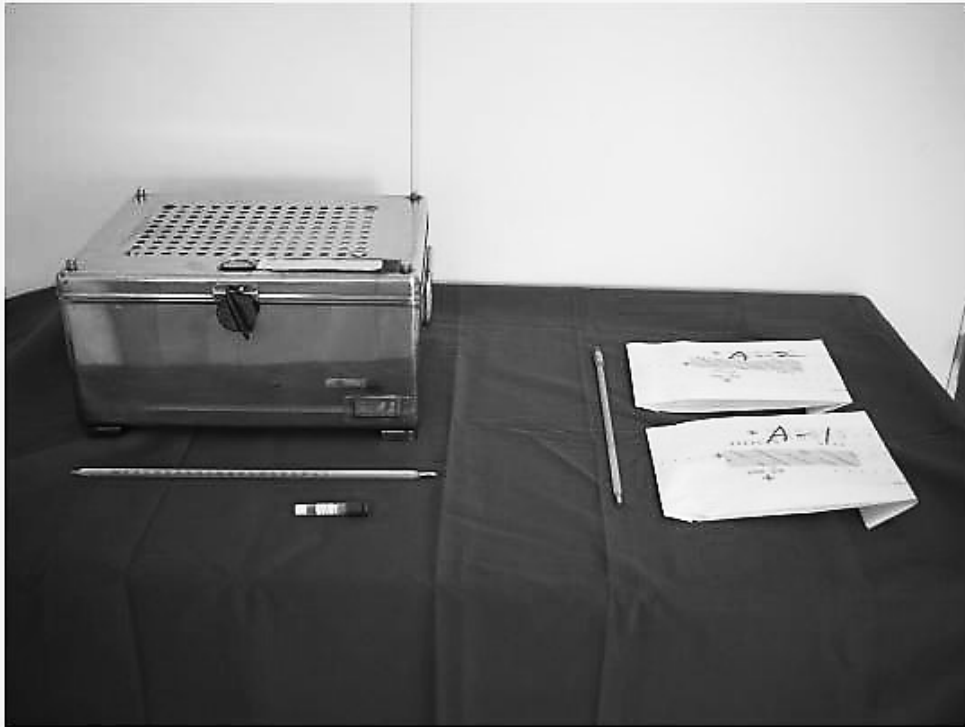
(18ケース、包布包装とした場合)

包装	1時間(30分×2人)
包装前滅菌テープの準備	15分
包布	36枚(2枚×18)
滅菌テープ	18m(20cm×5本×18)
ケミカルインジケータ(内部用)	18枚
オートクレーブ運転	1.125台
生物学的インジケータ	2個

その他;員数確認と受領、清拭・洗浄および消毒・滅菌、BIの培養・判定、  
手術部への運搬、手術部内の確認・運搬・開封・回収用コンテナ  
ーへ収納、返却コーナーのカートに積載、  
返却コーナーからの運搬、仕分け、清拭・洗浄および消毒・滅菌。







### 現実の持込手術器械の流れ①

持込申込書を添付して手術器械を持ち込む。

(医師または医師に依頼された業者・メーカー)



材料部洗浄室で持込者と一緒に員数確認をして受け取る。



清拭・洗浄・消毒・滅菌をして組立室に送る。持込申込書も一緒に。



組立室で包装・表示をして夫々の滅菌に入れる。

(特定保険医療材料の員数を2人で確認する)



滅菌保管室で滅菌効果判定後、カートごと手術部に供給する。

## 現実の持込手術器械の流れ②

手術終了後、使用器械は洗浄用バスケットに入れ、さらに回収用  
コンテナに入れて回収用カートに乗せる。

未使用器械は持ち込んだケースに入れたまま、未開封器械もその  
まま回収用カートに乗せる。

材料部で回収し洗浄室に運び込む。



使用した器械は洗浄工程に入れる。

未使用器械は汚染の有無を確認し、なければ短時間の滅菌にかける。

未開封器械はオゾン薫蒸装置で消毒する。

特定保険医療材料を添付伝票と照合する。



組立室で使用器械を点検し器械盤に入れる。

使用・未使用器械、未開封器械、持込申込書をひとまとめにして返却カートに置く。



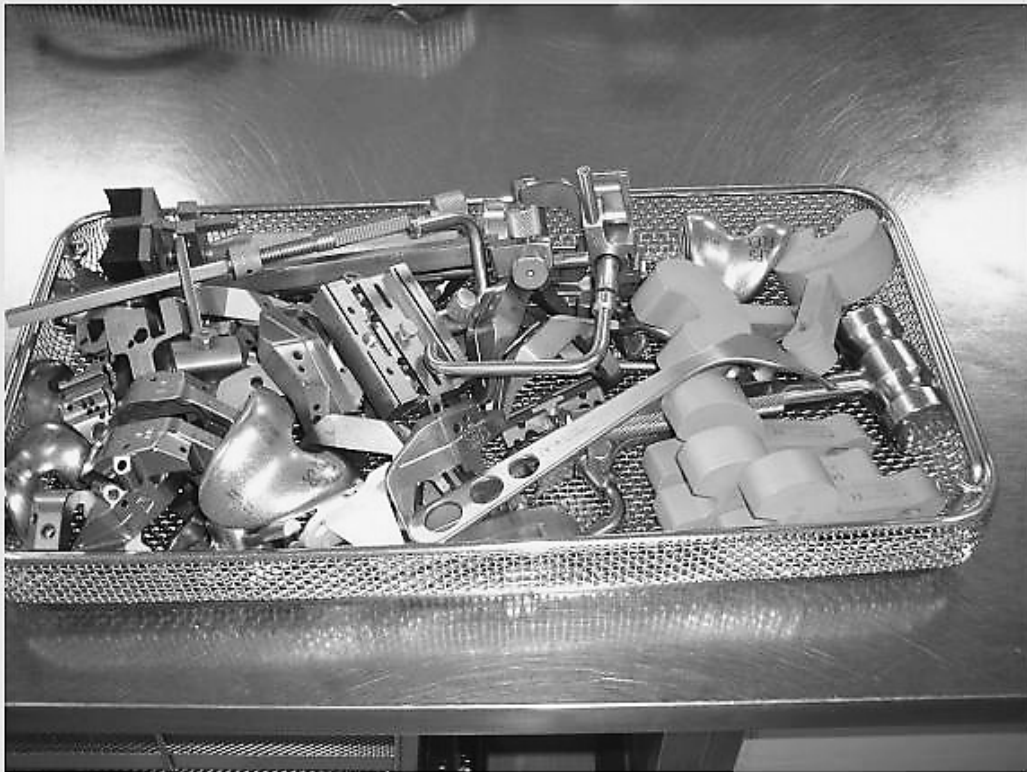
持込者が使用器械をケースに収納し持込器械を回収する。

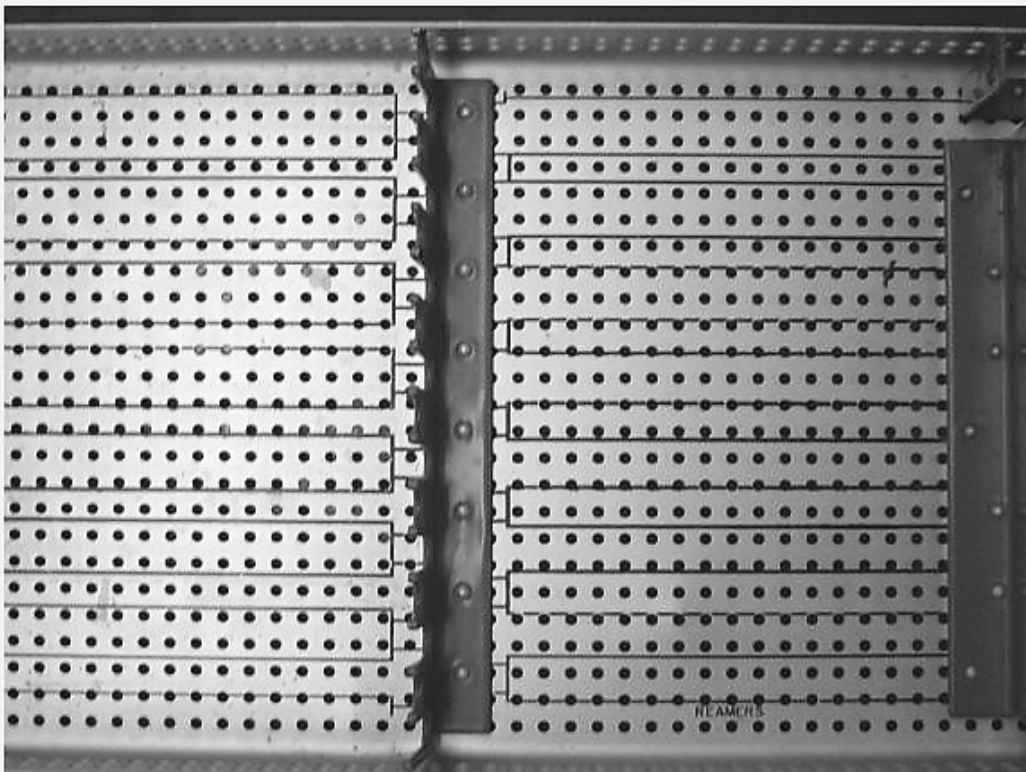
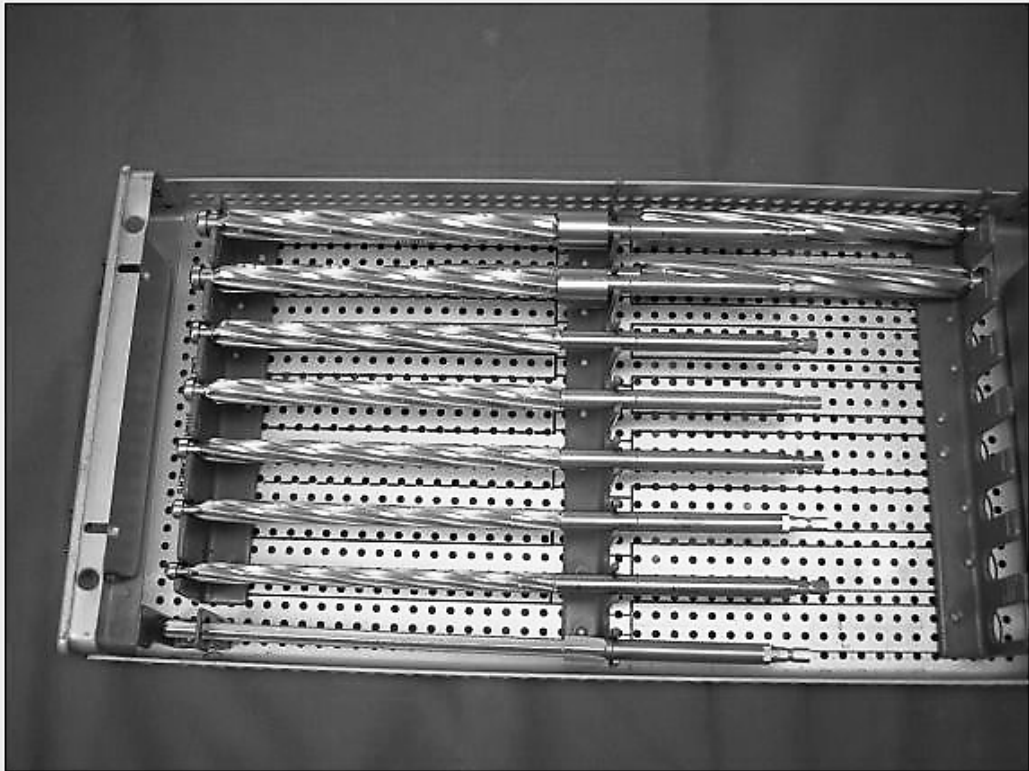
次回の使用の為に特定保険医療材料を補充して、再持込器械とすることも有る。

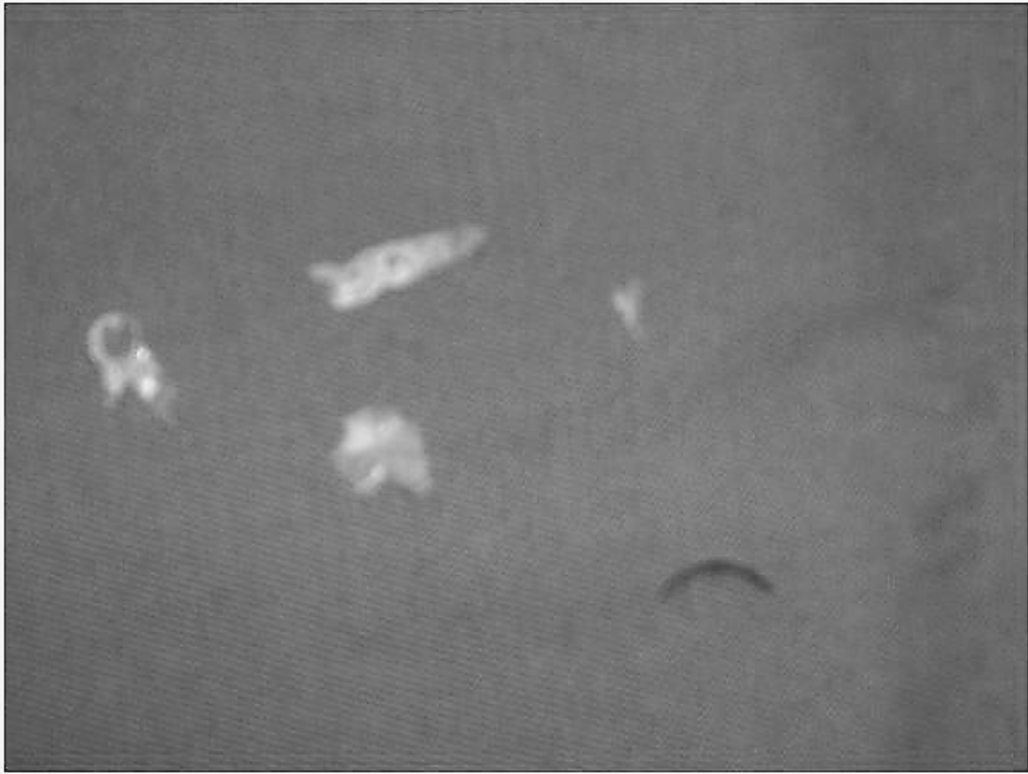


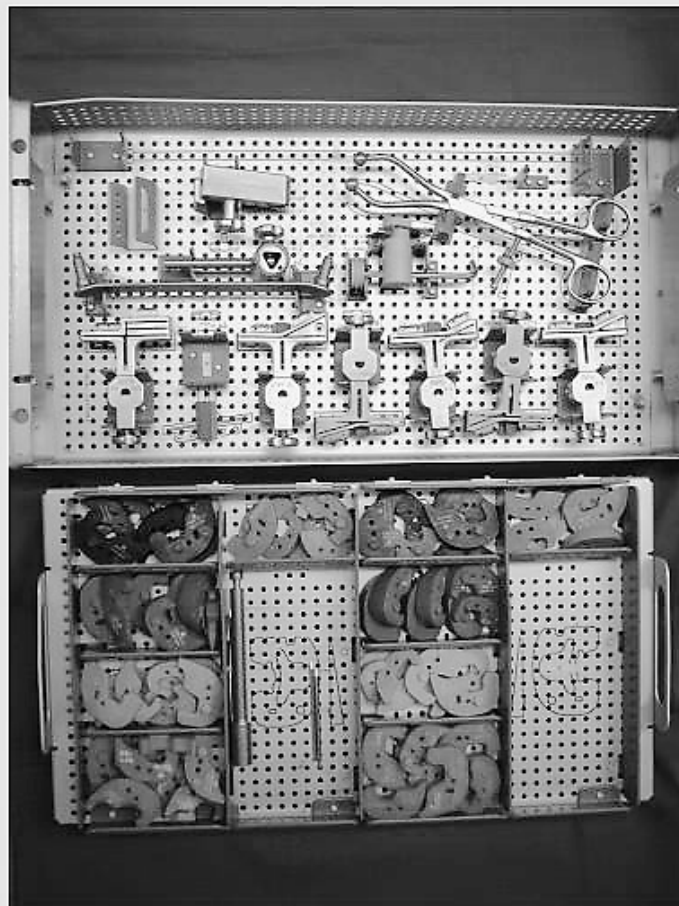
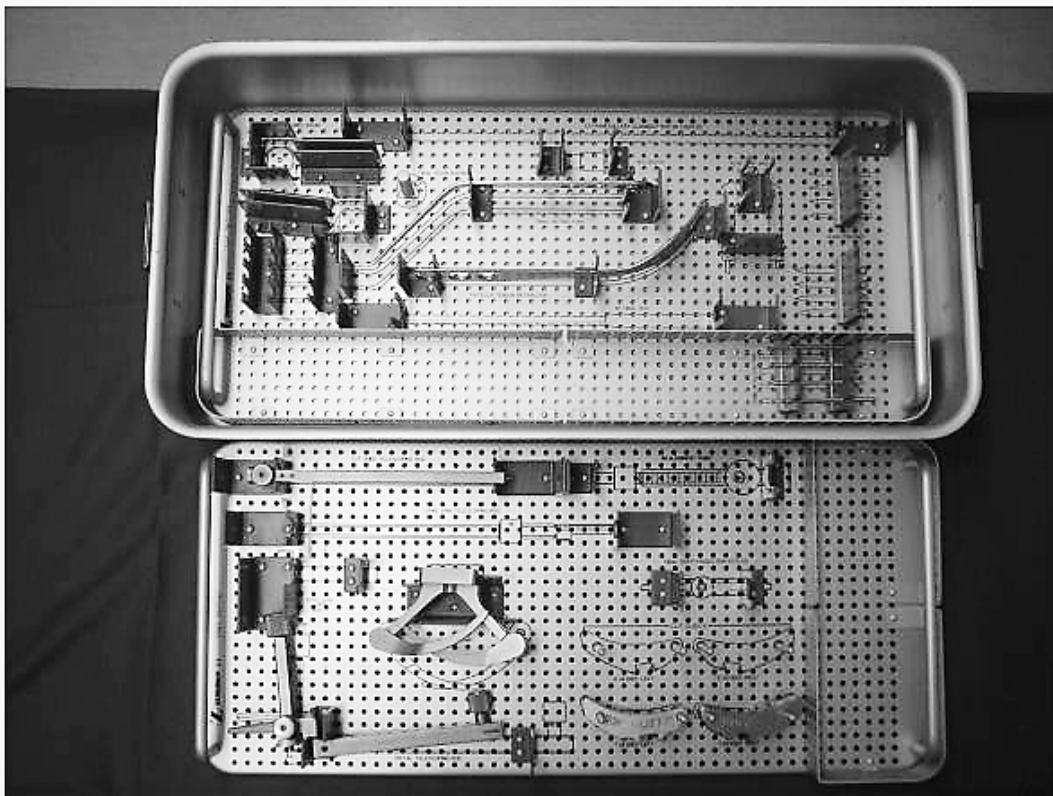
特定保険医療材料の添付伝票をもとに(支払いの為に)物品請求をする。

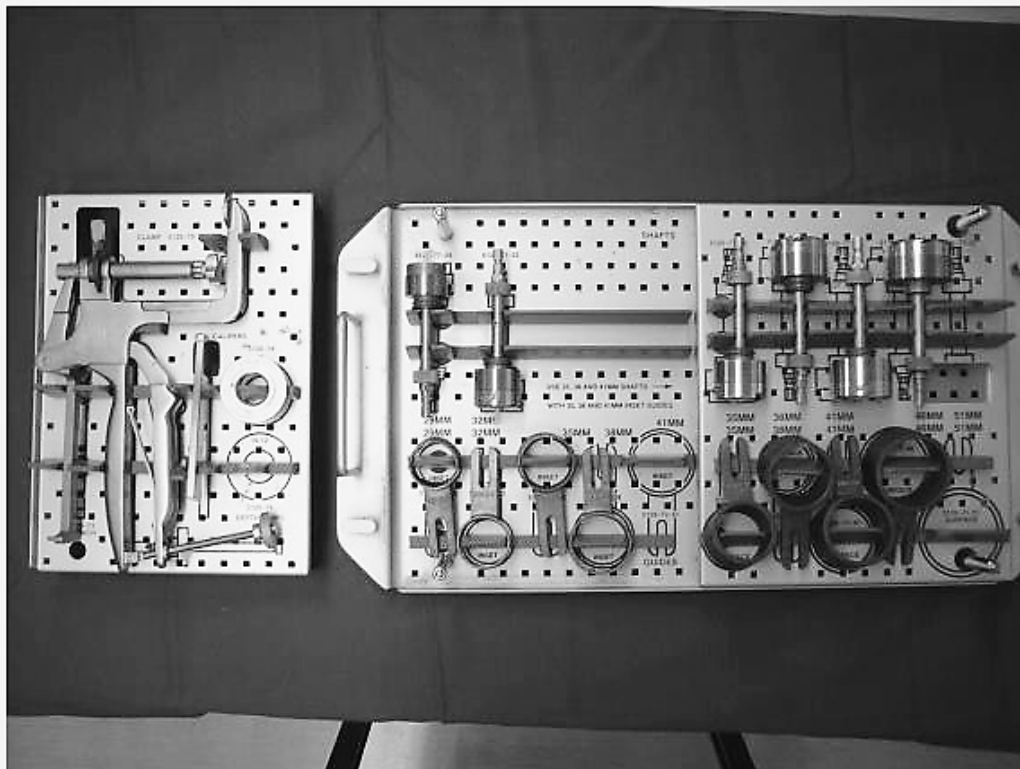
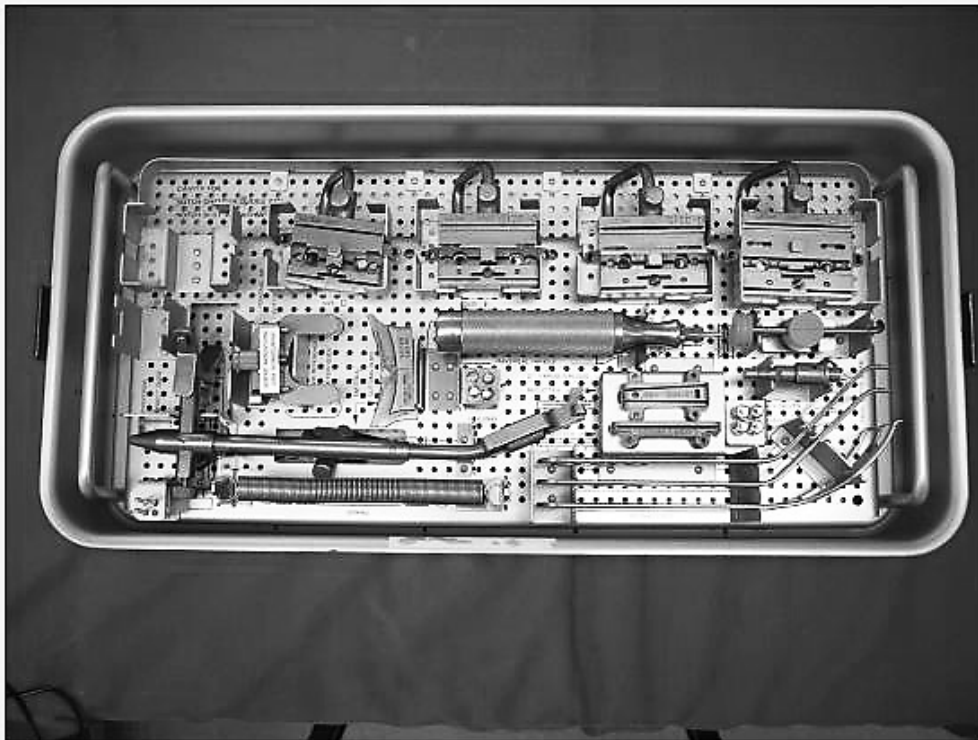




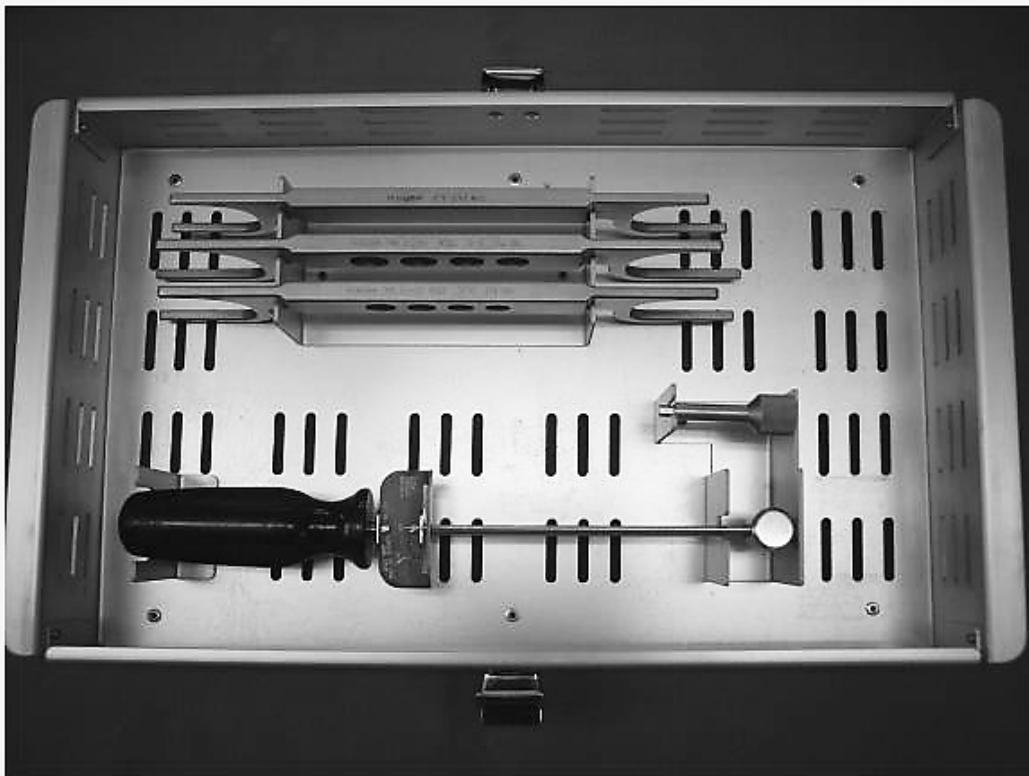
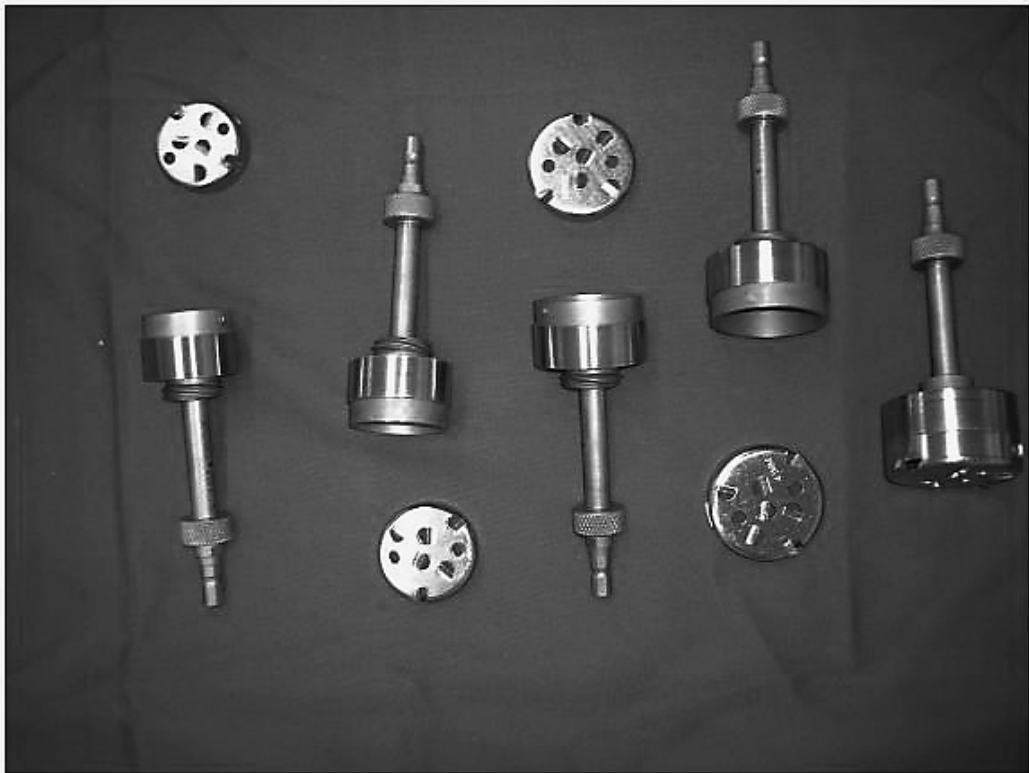


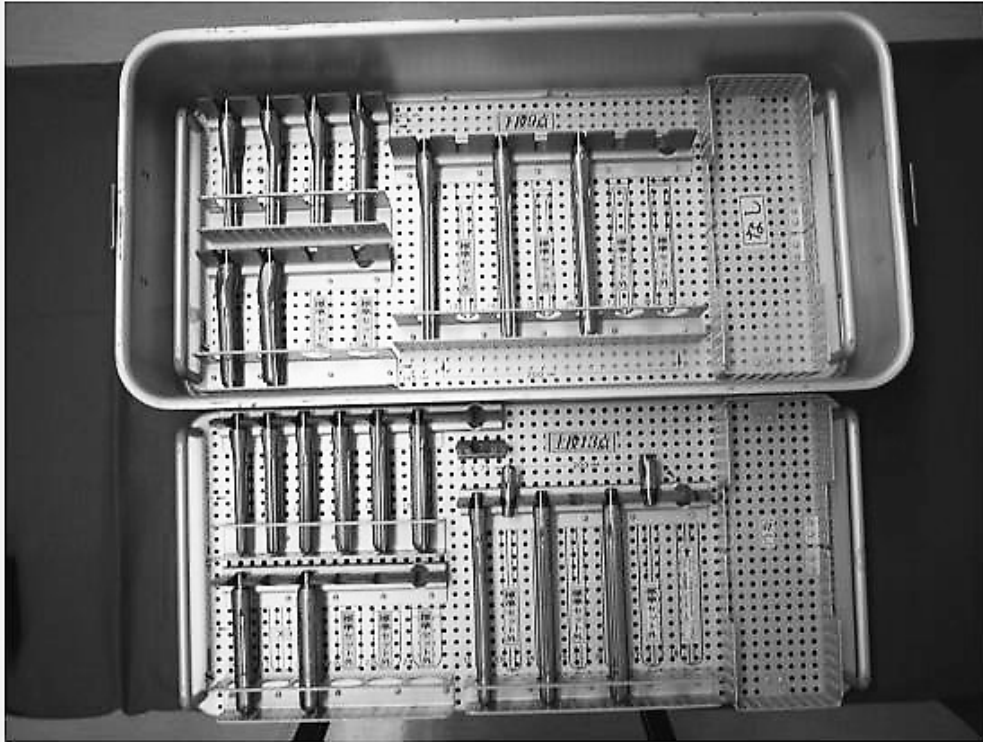












## 今後の課題

- 医師・材料部と手術部の職員がコスト意識を持つこと。
- 全職員が安全について意識を高めること。
- 材料部職員はより良い業務遂行の努力をすること。
- 医師は日程の余裕をもって、業者・メーカーに依頼すること。

## メーカーへの要望

- 器械セット数を増やす。
- 可能な限りコンパクトにする。
- 洗浄・消毒をし易い形態にする。
- ケースは同じ型に統一する。滅菌コンテナが望ましい。